

令和7年度 第12回 教育委員会

日時 令和8年3月10日(火) 15:30~16:30

場所 町公民館・大会議室

出席者	教育委員	柿田 美香	教育長	高松 公俊
	教育委員	横山 槇子	教育総務課長	野村 敏幸
	教育委員	中神 克寿	社会教育課長	佐藤 光久
	教育委員	山口 昇	教育総務課主幹	馬場 勇次
			社会教育課主幹	麻生 昌秀(欠)
			教育総務課係長	森本 亜紀
			社会教育課係長	井上 隆広
			教育相談員	南正覚 雅士
			SSW	松尾 容子
			議事録	古高 望

○開会の挨拶

○教育長挨拶

綾小学校が台湾の小学校と姉妹校締結を行い、本格的な交流が始まったことについて触れ、挨拶を行った。また、今年度の事案に対する振り返りを行った。

○教育長事務報告

(教育総務課 係長)

行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

(社会教育課 係長)

教育総務課と同様、行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

(教育総務課 主幹)

行事計画の中で「小学校入学式」の話があったが、令和8年度入学式は4月14日(火)に設定している。これは、新1年生が金曜日に入学してすぐ土日休みに入るよりも、週の途中にすることでスムーズに学校生活に慣れてもらうための配慮となる。

○協議事項

(教育総務課 係長)

綾町乳児等通園支援事業の認可報告について説明を行った。

「こども誰でも通園制度」の整備を条例としてあげさせていただいた。それに伴い、綾町

内にある私立の綾保育園、綾幼稚園から、空いている定員枠の中で運営をしていく余暇型で申請が上がっている。市町村長の認定に基づくため町長とも協議を行い、4月1日以降より認定とし、その日をもって「こども誰でも通園制度」を運営していただく形となる。3月下旬の広報にて掲載予定。

(教育委員)

前回の定例教育委員会において、子育て支援制度の預かり金額が上がるとのことだったが、利用者にはどのような説明を行う予定なのか。金額が上がることに対して、支援と言えるのか等の意見が出るのではないかと考える。

(教育総務課 課長)

議会でも心配の声はあったが、「こども誰でも通園制度」を国が全国的に実施するというので、金額が1時間あたり300円/月と決まっている。今のまま子育て支援センターでの一時預かりを半日500円とすると、国の制度の推進が図れないことが危惧される。利用者の方にはご理解をいただければと考えている。

(教育総務課 係長)

議会の承認を得られないと確定するものではないが、現在利用されている方が急に金額が変わったことを知るといった状況にならないよう、事前にお知らせという形で周知は行っている。

(教育委員)

「こども誰でも通園制度」が、子供が減っている現代で保育所や子育て支援施設の存続を守るといったメリットにつながるのか。

(教育総務課 課長)

本来の制度の趣旨が、保育認定を受けていない子供が集団生活に慣れることや、保護者が保育士や他の保護者とつながり、子育てを1人で抱え込まないようにすることである。綾町としては待機児童がないということもあり、利用はあまり多く見込めない。

(教育委員)

一時預かりは保護者のための制度、こども誰でも通園制度は子供のための制度とも言えるが、内容としては同じ。ただ、月10時間で子供が慣れるのかというところは懸念している。保育施設は保育士の処遇改善や物価高騰の面から、様々な金額が上がっているのが全国的な流れとなっている。

(社会教育課 課長)

例規関係の改正について説明を行った。
3月議会にて「てるはドーム」の施設利用料の見直しを上程させていただいた。LED改修、床改修、空調設備の設置や今後のランニングコストを含めた上での見直しとなっている。一年間新しい金額で運用を行い、その料金が適切なものであったのかは判断をして、また料金の改定等は行っていきたいと考えている。その旨についても、議会の方で説明を行いたい。

(教育総務課 SSW、教育相談員)

小・中学校の児童生徒等の状況について説明を行った。

(教育総務課 主幹)

いじめ防止対策委員会報告について説明を行った。

いじめについては、小中学校ともに認知件数が減少傾向にある。また、SNS相談を導入しており、夜9時以降などプライベートな時間帯に子供から相談が寄せられるようになっている。

教育支援センター「てるは教室」では、午前中に運動と学習を行い、お昼から学校へ給食を食べに行くという流れをとることで、社会性を保ちながら学校復帰を目指す取り組みを行っている。

(教育委員)

いじめをしている子も、傷をもつ子であるかもしれないため、適切なケアが必要になると考える。

(教育委員)

小さいときから子供が訴えることを周囲がどれだけ聞いてきたかが大切。喜怒哀楽の感情を自分の口で伝えるということを行っていなければ、小・中学生になったとき自ら相談するのは難しいのではないかと考える。「大人には何でも話せる」そういった信頼関係づくりが重要である。

○閉会